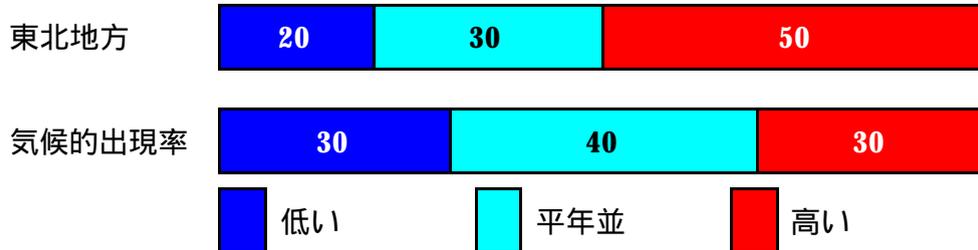


# 東北地方3か月予報（10～12月）の解説

平成11年9月20日 仙台管区气象台

## 1. 予想される天候

(1) 3か月平均気温の予想される各階級の確率（％）



3か月平均気温の各階級の確率

[概要]

10～12月の3か月平均気温は、「高い」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。「平年並」の可能性が次に大きく、その確率は30%です。「低い」の可能性は小さく、その確率は20%です。

(2) 可能性の大きな天候の特徴

	10月	11月	12月
気圧配置	低気圧や高気圧が数日の周期で通過する。	低気圧や高気圧が数日の周期で通過し、一時冬型の気圧配置となって寒が入る。	時々冬型の気圧配置となる。
天気	天気は周期的に変化するでしょう。	天気は周期的に変化するでしょう。 平年と同様に、東北日本海側では曇りや雨の日が多く、東北太平洋側では晴れの日が多い見込みです。	平年と同様に、東北日本海側では曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側では晴れの日が多いでしょう。
気温	高い	平年並	平年並
降水量	平年並	平年並	平年並

なお、10～12月の3か月間の降水量は、「平年並」の可能性が大きいです。

< 参考資料 >

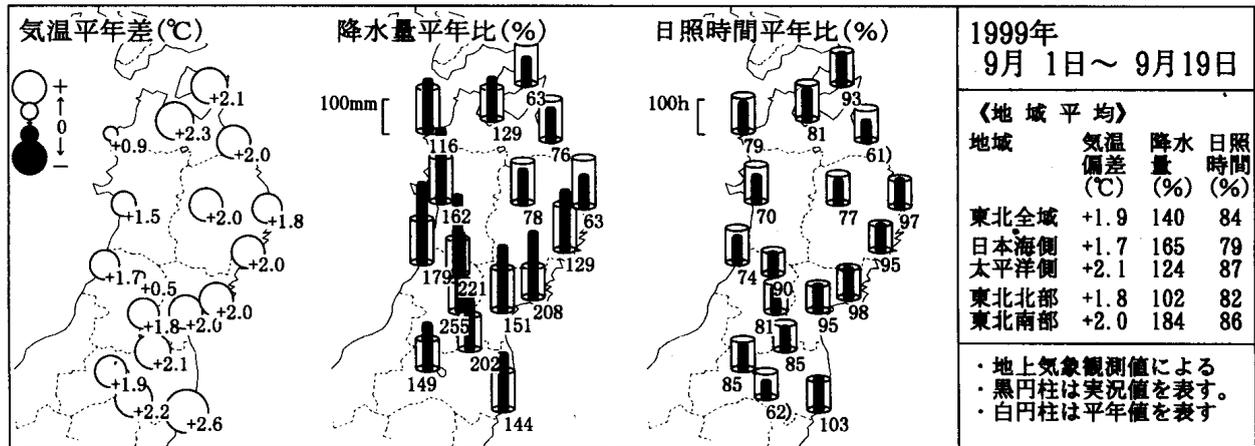
平年のおおよその天気出現割合(%)

	10月		11月		12月	
	東北日本海側	東北太平洋側	東北日本海側	東北太平洋側	東北日本海側	東北太平洋側
晴れの日 日照率 40%以上	52	61	35	62	22	64
雨の日 日降水量 1mm以上	41	29	53	27	63	23

注：季節予報では、「日降水量 1mm 以上の日数」、「日照率 40% 以上の日数」を雨の日、晴れの日を目安として用いている。この2つの事象は同じ日に起こりうるため、両方に数えられる日もある。日照率は、1日の日照時間を可照時間（太陽の中心が東の地平線に現れてから西の地平線に没するまでの時間）で割った値である。

## 2. 最近の天候経過と循環場の特徴

### (1) 最近の天候経過



東北地方における9月の平均気温、降水量、日照時間

9月(19日まで): 上旬は、天気は数日の周期で変化した。初め、秋雨前線が東北地方を南下し雨となったが、中頃にかけて秋雨前線は本州南岸に停滞し、東北地方は移動性高気圧に覆われて晴れた。後半には、日本海を進んだ低気圧や秋雨前線の影響で曇りや雨となったが、期末には再び高気圧に覆われ晴れた。

中旬は、秋雨前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多かった。特に、15日には台風第16号が本州を横断したため、東北南部にあった秋雨前線の活動が活発となり、東北南部は大雨となった。

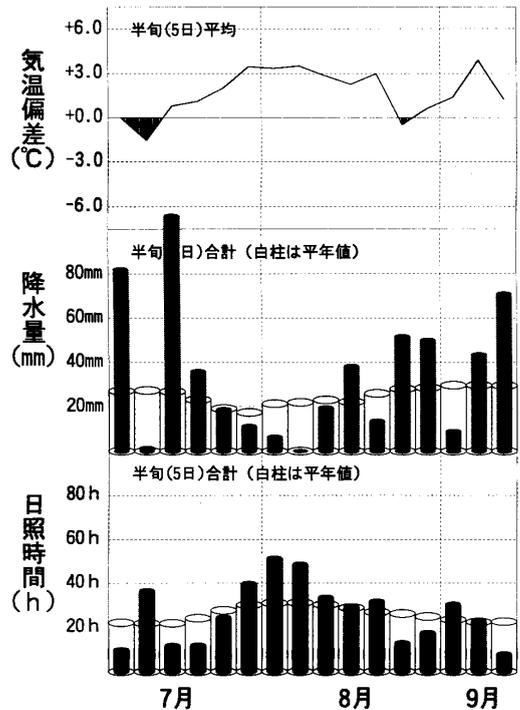
この期間の平均気温は平年より高く、東北太平洋側で平年を2.1上回り、東北日本海側でも平年を1.7上回った。降水量は、台風第16号や秋雨前線の影響を受けた東北南部は平年の184%となったが、東北北部は102%だった。日照時間は、秋雨前線や低気圧の影響を受けやすかったため東北日本海側で79%、東北太平洋側で87%と平年を下回った。

### (2) 中・高緯度の循環

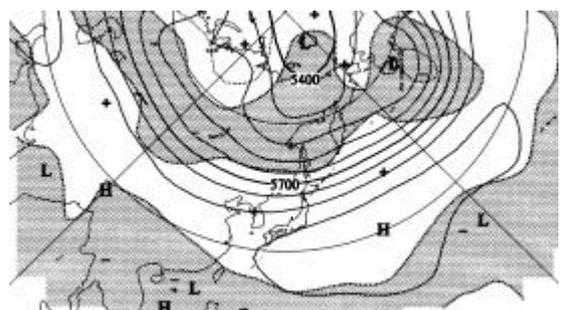
9月: 極付近は正偏差で寒気の放出期となった。しかし、極東付近の偏差をみると、寒気に対応する負偏差は北緯50度以北と寒気の南下は弱く、日本付近は東西に広がる正偏差に覆われた。また、日本の南海上や東シナ海ではしばしば弱い熱帯低気圧や台風が発生したため、負偏差となった。

500hPaの流れは日本付近で東西流(ゾナル)が卓越し、南東海上の太平洋高気圧の勢力は平年より強く、西谷傾向となった。

これは、東北地方に寒気が入りにくく、気温が高く経過したことや、秋雨前線や低気圧の影響を受け天気がぐずつく時期があったことに対応している。



東北地域半月経過図



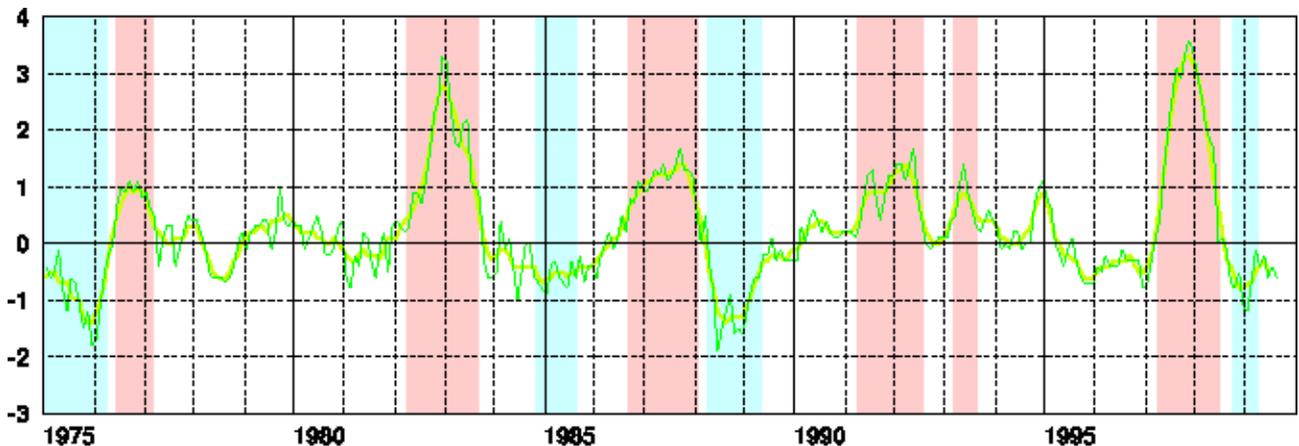
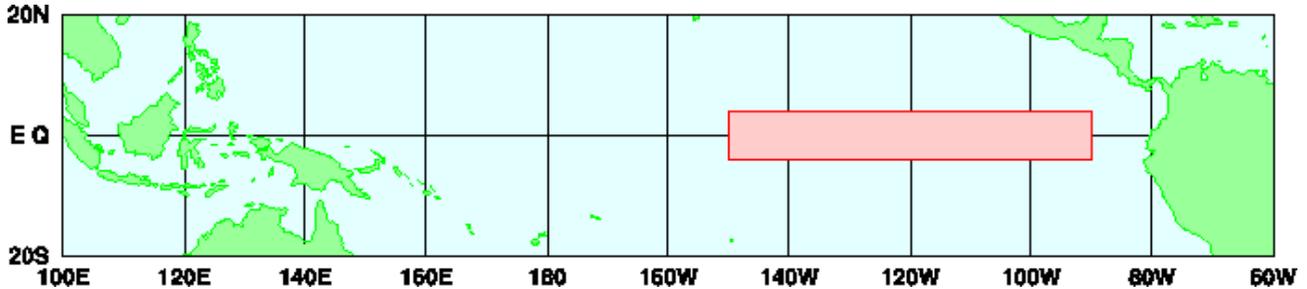
9月1～19日平均500hPa天気図  
等値線間隔60m  
陰影部は平年より高度が低い領域

### (3) 熱帯太平洋の状況

エルニーニョ監視海域（北緯 4 度～南緯 4 度、西経 150 度～西経 90 度）の 8 月の海面水温偏差は、-0.6 であった。

8 月の太平洋赤道域の海面水温は、東経 170 度から西経 115 度で平年より 0.5 以上低く、西経 150 度と西経 130 度を中心とした海域で、平年より 1 以上低かった。一方、東経 140 度から東経 150 度にかけて+0.5 以上の正偏差が見られた。

8 月の南方振動指数は 0.0 であった。（南方振動指数は貿易風の強さの目安であり、正（負）の値は貿易風が強（弱）いことを示す。）



エルニーニョ監視海域(上)の月平均海面水温偏差( )の推移(1975年1月～1999年8月)

折線は月平均値、滑らかな太線は5か月移動平均値を示し、正の値は平年(1961～90年の30年平均値)より高いことを示す。エルニーニョ現象の発生期間は赤で、ラニーニャ現象の発生期間は青で、それぞれ陰影を施してある。

#### エルニーニョ監視指数

エルニーニョ監視海域	1998年				1999年							
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月平均海面水温( )	23.9	23.8	24.1	23.8	24.2	25.5	26.8	26.7	26.4	25.5	24.8	24.0
平年偏差( )	-0.7	-0.8	-0.5	-1.1	-1.2	-0.7	-0.1	-0.4	-0.2	-0.6	-0.4	-0.6
5か月移動平均( )	-0.4	-0.6	-0.8	-0.8	-0.7	-0.7	-0.5	-0.4	-0.3	-0.5		
南方振動指数	+1.0	+1.2	+1.0	+1.5	+1.5	+0.8	+0.8	+1.8	+0.3	+0.1	+0.6	+0.0

注：海面水温の平年値は、1961～1990年の30年平均値である。

### (4) エルニーニョ監視海域の海面水温の今後の見通し(1999年9月～2000年3月)

エルニーニョ監視海域の海面水温は引き続き、平年並からやや低めに経過するが、向こう半年間にラニーニャ現象・エルニーニョ現象ともに発生する可能性は小さい。

## 3. 前回(8月23日)発表の3か月予報からの変更点

10月気温 平年並 高い